

11月5日は 津波防災の日 世界津波の日



令和4年度

「津波防災の日」 スペシャルイベント

 参加
無料

2022.11.5(土) 13:00-15:00

趣旨

各地で津波防災対策の取組が進められています。そして、今年5月には、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」が改正されたところであり、更なる取組の推進が求められています。

津波は、迅速かつ適切な避難によって、人的な被害を相当程度軽減できる災害です。

今回の「津波防災の日」スペシャルイベントでは、「地域特性に応じた津波防災の推進」をテーマとして、基調講演及びパネルディスカッションを実施します。日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震で津波被害が想定される根室市、南海トラフ地震で津波被害が想定される那智勝浦町もサブ会場としてオンラインで結び、津波防災対策の議論を行います。是非、ご参加ください。

開催概要

当日のプログラム(予定)

メイン会場

東京都千代田区 BASE Q
(東京ミッドタウン日比谷 6階)
(東京都千代田区有楽町1-1-2)

開会挨拶 内閣府特命担当大臣 (防災)

第1部基調講演「津波防災を進化させる —津波避難訓練等でタブーへも挑戦—

今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所所長)

第2部パネルディスカッション「各地の津波防災に関する取組の紹介と意見交換」

ファシリテーター：阪本真由美 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授)

登壇者：

今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所所長)

佐藤健一 (アジア航測株式会社社会インフラマネジメント 事業部地域創生部技師長
(前東日本大震災遺構・伝承館館長、元気仙沼市危機管理監))

村上威夫 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当))

開催形式

メイン会場とサブ会場
(北海道根室市及び和歌山県那智勝浦町)
をオンラインで結び、サブ会場からの
発表に基づくディスカッションを実施

※メイン会場及びオンライン視聴の参加者を募集します。メイン会場については、参加希望者が定員に達した場合、募集を終了します。また、新型コロナウイルスの感染状況によって参加方法等の変更を行う場合は、参加申込をいただいた方へご連絡いたします。

参加費 無料

参加申込方法

(メイン会場及びオンライン視聴)

津波防災に関する特設サイトの申し込みボタンより必要事項をご記入の上、
11月2日(水)までに事務局までご送信ください。

津波防災特設サイト 検索 <https://tsunamibousai.jp>



講演内容紹介

第1部基調講演「津波防災を進化させる —津波避難訓練等でタブーへも挑戦—

今村文彦（東北大学災害科学国際研究所所長）

東日本大震災の大きな被害を受けて、災害を繰り返さないために津波防災地域づくりに関する法律が制定され、各地で、津波の浸水想定や避難計画の検討などが実施されています。考えられる最大規模も含めて事前に準備することが不可欠ですが、突然に想定外の事象も起ります。今年1月15日トンガ噴火による潮位変化が発生しました。当時の津波情報と避難実態について紹介します。だれでもいつでも出来る避難ですが、盲点も沢山ありました。課題の1つが、津波避難訓練です。その必要性和重要性は変わりませんが、どうもその内容や参加率はどうでしょうか？マンネリ化になっていないでしょうか？様々な工夫も試みられていますし、自動車移動などこれまでタブーとされてきたことをあえて取り入れる事例もあります。誰のための何のための企画なのか？是非、検討いただきたいと思います。

[プロフィール]

今村 文彦 氏

東北大学災害科学国際研究所 所長

- アジア工科大学院助教授、東北大学助教授、東北大学教授等を経て、2014年4月から東北大学災害科学国際研究所長（現職）、2020年4月から東北大学総長補佐（現職）、関西大学客員教授（社会安全学部）（現職）
- 元自然災害学会会長、防災功労者内閣総理大臣表彰（平成28年）、濱口梧陵国際賞（国土交通大臣賞）（2020年）等

第2部パネルディスカッション「各地の津波防災に関する取組の紹介と意見交換」

北海道根室市

根室市は北海道の東端に位置し、太平洋とオホーツク海という恵みの海に囲まれた日本有数の水産都市です。これまでの津波防災の取組みとしては、町会単位の地区ごとに「地域版津波避難計画」を策定し、それに基づく津波避難訓練などを実施してきたところです。

昨年7月に北海道から新たな津波浸水想定が公表され、最大波到達時間は最短で24分、最大津波高21.7mと示されたほか、本年7月には市町村別の被害想定が公表となり、津波による死者数が最悪の状況で2,300人という衝撃的な数字が示されたところであり、これを何としても「ゼロ」に近づけるためのあらゆる取組を進めるため、現在「根室市津波防災地域づくり推進計画」の策定を進めており、ハード・ソフト両面から、多重防御の在り方を検討しているところです。

和歌山県那智勝浦町

那智勝浦町は和歌山県の南東部に位置し、日本有数の水揚げ高を誇る生まぐろを活かした水産業と、世界遺産や温泉等の豊富な資源による観光業のまちです。

このように、「海」と密接に関わり合いをもつまちとして成り立っていることから、近い将来発生が懸念されている南海トラフ地震では、沿岸部において大規模な津波被害が想定されており、津波避難施設等の整備による避難対策が進められているものの、景観への配慮等、津波防災と産業の両立といった点で課題を抱えています。

また、津波の到達時間も早く、地震発生後10分以内に沿岸部の広い範囲で津波浸水が予測されており、迅速・安全に避難を完了し「命」を守るためには「自助」・「共助」・「公助」の連携が不可欠であり、津波避難施設等の整備に併せ、防災訓練や学習会を実施し、住民の防災意識の醸成に取り組んでいます。

[プロフィール]

佐藤 健一 氏

アジア航測株式会社社会インフラマネジメント事業部
地域創生部技師長
(前東日本大震災遺構・伝承館館長、元気仙沼市危機管理監)

- 気仙沼市総務部危機管理監兼危機管理課長、2012年10月からアジア航測株式会社社会インフラマネジメント事業部地域創生部技師長（現職）、2021年度に東日本大震災遺構・伝承館館長を兼務
- 東日本大震災当時に気仙沼市危機管理課長を務める

阪本 真由美 氏

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授

- 国際協力機構（JICA）、人と防災未来センター研究部主任研究員、名古屋大学減災連携研究センター特任准教授、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授等を経て、2020年4月から兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授（現職）
- 内閣官房「ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会委員」、内閣府「火山防災対策会議委員」、「被災者支援のあり方検討会委員」、「個別避難計画作成モデル事業アドバイザーボード委員」等

